



退学抑止のポイントは新生生の大学適応！

1日、2日の工夫で変わる 初年次教育の実践報告

弊社が開発した「自己の探求」プログラムは約120の大学短大で活用をされています。そして入学してすぐのタイミングでの学校への帰属意識の芽生えが、退学者を減らすことがわかって参りました。大学トップセミナー2017では、入学時のプログラム導入を実施いただいている大学様の導入の経緯やプログラムの評価、その後の教育活動への接続を担当者からご報告させていただきます。

日程・会場

東京
会場

2017年7月10日（月）

株式会社ラーニングバリュー東京本社
セミナールーム
JR浜松町駅・地下鉄大門駅徒歩4分

仙台
会場

2017年7月13日（木）

トラストシティ カンファレンス・仙台 Room6
各線仙台駅徒歩6分

高崎
会場

2017年7月14日（金）

高崎アーバンホテル Rosso(ロッソ)
高崎駅西口直結

時間：全日程ともに15:00～17:30

開場：14:30

参加費無料・事前申し込み制・先着20名



内容

- 実践報告
ご紹介例

清泉女学院短期大学幼児教育科

- 1年生春「自己の探求（1日版）」を実施
- 1年生冬～2年生春 複数回にわたってのリーダー養成講座の実施

武蔵野大学

独自の全学共通基礎課程【武蔵野BASIS】の1科目として、1年生全員が全学部学科横断で「自己の探求」を実施

- 「自己の探求」プログラムの一部体験
- 質疑応答

※内容に変更が入る場合がございます。



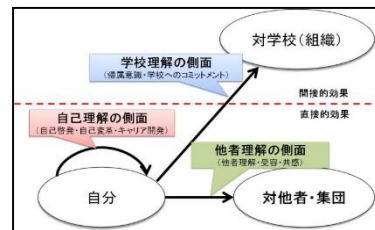
「自己の探求」プログラムによって大学生の自己理解、他者理解が促されること。
そして学校(大学)に対してもポジティブな理解がもたらされることが明らかになりました。

<結論>

- ① 大学生の「自己理解」「他者理解」「学校理解」は「自己の探求」プログラムの体験を通してポジティブに変容する。
- ② 「自己の探求」プログラムを通して大学生に認められた「自己理解の変容」は7つの要素、「他者理解の変容」は、5つの要素から、「学校理解の変容」は6つの要素から理解することができる。
- ③ 各側面における各要素は同時に体験される可能性が高い。

<目的>

「自己の探求」プログラムを体験した大学生が報告した①自己理解、②他者理解、③学校理解の変容について科学的根拠を示すこと。



<対象者>

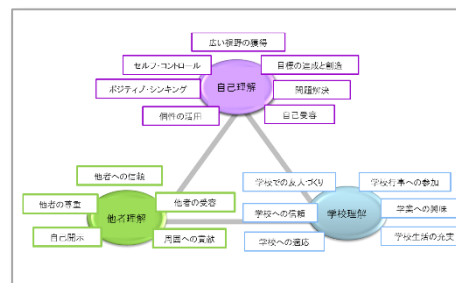
- ① 「自己理解」・「学校理解」の調査: 279名
- ② 「他者理解」の調査: 321名

<質問紙>

2007~2008年の予備調査に基づいて作成された「自己理解の変容」、「他者理解の変容」、「学校理解の変容」に関する項目、計60項目。

<統計解析>

統計解析ソフトSPSS15.0による因子分析と記述統計結果をまとめる



出典:「自己理解を深める体験が大学生の心理的側面に及ぼす影響」(順天堂大学水野基樹先准教授)

お申し込み・お問い合わせ

○お申し込みは、FAXまたはメールにてお願いいたします。追って担当者よりご連絡いたします。

Faxの場合: 03-5776-5961 まで以下をご記入の上返送ください。

メールの場合: seminar2017@l-value.jp まで以下の情報をご記入の上送信ください。

※ご参加、資料請求につきましては、大学関係者のみとさせていただきます。

ご参加会場	<input type="checkbox"/> 東京会場 (7月10日)	<input type="checkbox"/> 仙台会場 (7月13日)	<input type="checkbox"/> 高崎会場 (7月14日)
貴学名			
部署・役職名			ご芳名
電話番号			Mail
複数でご参加される場合は、ご同行者の上記情報をこちらにご記入ください			

○資料のみご希望の場合、以下に発送先等をご記入ください

貴学名		部署・役職名	
ご芳名		ご住所	
電話番号		Mail	

主催:株式会社ラーニングバリュー 担当:樋口、藤田、吉田

東京都港区浜松町1-25-13浜松町NHビル4F

Tel 03-5776-5960 Fax 03-5776-5961 Email seminar2017@l-value.jp